

**堀内 秀明 (Hideaki Horiuchi)**

リサーチ&アドバイザリ部門
アプリケーションズ ジャパン
マネージング パイス プレジデント

お客様へ

企業において至急解決すべき具体的な課題はさまざまですが、IT が関連する領域においては、情報の有効活用が常に最大の課題の 1 つであるといえます。近年では、インターネットやソーシャル・メディアといったコミュニケーション基盤の成熟と普及に加え、スマートフォンやタブレットといった、場所を選ばずインターネットに接続可能な情報端末の利用が広まり、一般消費者の情報に対する期待や、購買における行動が大きく変化しました。さらに、各種センサを備えたモノから多様なデータを入手し、そうしたデータを利用して付加価値を提供するようなことも一般的になってきました。このような変化に適切に対応し、新たなビジネス価値を提供していくために、情報を活用すべきであると考えている IT リーダーは数多くいらっしゃいます。しかし、取り扱うデータの量や質、要求される分析スキルの高さ、自社のデータ・リテラシの低さなどが障壁となり、継続的に成果を得られているという企業は少ないようです。

私は、国内における BI 製品／テクノロジー、そして BI 展開のベスト・プラクティスに関するリサーチをベースに、ユーザー企業の視点から BI に関する製品選定、システム導入、利活用の推進についてのアドバイスをを行います。また、製品トレンド、ベンダー各社の戦略分析、システム導入トレンドなどの情報も併せて提供してまいります。

担当分野

データの分析・活用に関するベスト・プラクティス
BI システムの構築・導入・利用に関するアドバイス

関連キーワード

BI、アナリティクス、データ・サイエンス、データウェアハウス、情報活用、ビッグ・データ

実績

<レポート>

- 2019 年の展望:ビジネス・アプリケーションのアジリティ向上は焦眉の課題
- AI によるアプリケーション強化がビジネス・プロセスに与える影響
- 「働き方改革」に役立つアプリケーション／プラクティス
- 日本におけるエンタプライズ・アプリケーションのハイプ・サイクル:2018 年、ほか



<講演・プレゼンテーション>

- ーBI 近代化実現のポイント
- ーデジタル・ビジネスに成功をもたらすデータ／アナリティクスの組織とリーダーシップ
- ーBI／アナリティクス・トレンド 2017:セルフサービス化の正しい受け入れ方、ほか

略歴

日本における、エンタプライズ・アプリケーション領域をカバーするチームの責任者。チームのカバー領域には、ERP、CRM、コラボレーション、アプリケーション開発、アプリケーションの統合とアーキテクチャ、データ・マネジメント、BI／アナリティクスが含まれる。加えて、BI／アナリティクス領域のアナリストを兼務しており、BI ツールなどのデータ分析・活用を行うソフトウェアに関する市場動向調査、当該ソフトウェア製品やベンダーの選定における情報提供と助言、ならびにデータ利活用に関するベスト・プラクティスの調査と助言を行っている。ガートナー ジャパン入社以前は、国内大手 SI ベンダーにて 10 年間、製品調査、システム提案／構築ならびに技術支援に従事。慶應義塾大学理工学部卒。